KUZOKU FILM

国王大臣から遠く離れ深山幽谷にて山を拓けよ

誰の為に祈るのか？

何の為の信仰か？

他は是れ吾にあらず更に何れの時をか待たん

【空族】
富田克也
監督作品

典座
TENZO

FID 2019 AUDIENCE PRIZE
マルセイユ国際映画祭 観客賞

SEMAINE DE LA CRITIQUE CANNES 2019
カンヌ国際映画祭 批評家週間 特別招待

https://sousei.gr.jp/tenzo/

出演 河口智賢 倉島隆行 青山俊董
監督 富田克也
脚本 相澤虎之助 富田克也
プロデューサー 倉島隆行
アソシエイトプロデューサー 小山内展大郎 大野敦子 筒井修平
撮影・録音 スタジオ石
撮影・録音 山崎巌
編集 富田克也 古屋幸雄
音楽 右左口竹の会 Sri Yanda Art Tal Babylon Band KOSOKUVO
編集 風田泰彦
デザイン 今村光
ウェブ制作 山田俊哉
スチール 山口貴裕
VFX 定岡隆人
制作 全国曹洞宗青年会
宣伝 寿井孝世
配給 空族

『典座 -TENZO-』2019年／62分／DCP／ビスタ／5.1ch ©空族

『サウダーヂ』『バンコクナイツ』に続く富田克也最新作は、仏教とそれを取り巻く3.11以後の日本のすがた

演じているのは、全国曹洞宗青年会の実際の僧侶たち。映画製作にあたり、彼らが“今、一番話を聞いてみたい曹洞宗の高僧”青山俊董老師の元へ、実際に智賢が訪ね交わされた対話を軸に、福島、山梨、長野、そして中国の自然の中で繰り広げられる、現代日本の僧侶たちの日常が、フィクションとドキュメンタリーの枠を超え、円環しはじめる。

監督は常に規格外の作品で国内外に話題を振りまく空族・富田克也。『サウダーヂ』(11)で疲弊する地域社会を描き、『バンコクナイツ』(16)では現代日本をアジアから照射したが、今回は仏教とそれを取り巻く3.11以降の日本社会の姿を真っ向から捉えた。カンヌ国際映画祭の批評家週間「特別招待部門」に選出され、海外からの驚嘆の眼差しで迎えられた本作が、いよいよ日本公開となる。

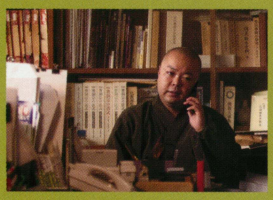
『典座 -TENZO-』2019年／62分／DCP／ビスタ／5.1ch

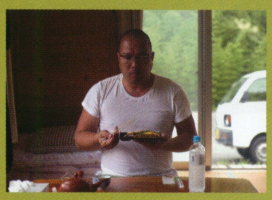
http://www.kuzoku.com/

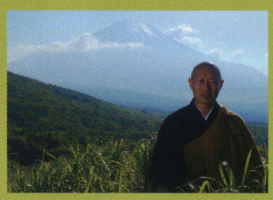
信仰を失ってしまったわたしたち

今こそ問う、仏教とは？信仰とは？

10年前、本山での修行期間を終えた兄弟子の隆行（リュウギョウ）と弟子の智賢（チケン）は、自らの生まれた寺へとそれぞれ戻っていった。富士山の裾野に広がる山梨県都留市、耕雲院。智賢は、住職である父と、母、妻、そして重度の食物アレルギーを抱える3歳の息子と共に暮らしている。全国曹洞宗青年会副会長としての顔も持ち、いのちの電話相談、精進料理教室やヨガ坐禅など、意欲的な活動を続けている。一方の兄弟子・隆行は福島県沿岸部にあったかつてのお寺も、家族も檀家も、すべてを津波によって流されてしまった。今では瓦礫撤去の作業員として、ひとり仮設住宅に住まいながら本堂再建を諦めきれずにいた―。仏僧も、それぞれみなひとりの人間。仏教は果たして必要とされているのか？　今こそ本当に信仰が求められる時代なのではないか。苦悩しながらも仏道に生きる若き僧侶の姿、そして高僧・青山俊董のことばを通じて、映画は驚くべき境地に観客を誘うことになる。







典座とは

禅宗の寺院においての僧侶やお寺への参拝者の食事を司る役職。仏道修行に励む僧堂に於いて、調理を司る典座職は、曹洞宗で六知事という重要な六人のうちの欠かせない一人であり、典座の教えは調理のみならず仏道を歩むうえでとても大切な教えを多く含む。

出演：河口智賢、近藤真弘、倉島隆行／青山俊董
監督：富田克也／脚本：相澤虎之助、富田克也
プロデューサー：倉島隆行
アソシエイトプロデューサー：小山内照太郎、大野敦子、筒井龍平
撮影・照明：スタジオ石／録音・整音：山崎巌
編集：富田克也、古屋卓雅
音楽：右左口竹の会
Suri Yamuhi And The Babylon Band
NORIKIYO
題字：藤田喜彦
デザイン：今村寛／ウェブ・デザイン：山田俊哉
スチール：山口貴裕／VFX：定岡雅人
製作：全国曹洞宗青年会
宣伝：岩井秀世／配給：空族

© 空族